

日本語教師養成サブコース履修者へのアンケート調査(2026年1月)結果

1. 回答者

回答者数:6名(対象者7名)

回答率:100%

2. 質問紙の構成

1)履修前、2)履修中、3)履修後、4)全体を通して、の4つのカテゴリーに分け、1)~3)はそれぞれ大問4~5問、計14問(小問含め19問)から構成、4)は1問で構成

3. 結果

3-1. 履修前

1. 大学院での専攻について、次の①と②にお答えください。

① 大学院でのあなたの専攻(研究テーマ)は、日本語教育と関係するものだと思いますか。関係すると思う場合は「はい」、そうでない場合は「いいえ」とお答えください(選択)

はい	いいえ
4	2

2. 日本語教師養成サブコース履修前は、日本語教育に関してどのような経験がありましたか(複数選択可)

項目	A 日本語教授	B 言語教授	C 日本語教育に関する学習	D 言語教育に関する学習	E 日本国内交流	F 海外交流	G 日本語学習	H 日本語学習	I 特になし	J その他
回答数	3	4	4	3	3	2	4	4	0	0

3. 上記の2で、A・Cを選択しなかった人にお聞きします。日本語教師養成サブコース履修前は、日本語教育についてどのようなイメージ・考えを持っていましたか。自由に記述してください。

サブコースを履修する前は、日本語教育を比較的単純に捉えていた。文法や語彙をわかりやすく説明し、練習させることが教えることだと考えていた。個人レッスンで日本語を教えた経験はあったが、主に自分の経験や直感に頼っており、言語習得の理論や学習者の特性に応じた教え方については十分に意識できていなかった。	国内における日本語教育の担い手が少ないことや、日本語教育に携わるためには、英語学習で文法を基礎からしっかりと学んでいくように、日本語の文法も一から学びなおさなければならないものだと考えていた。
---	--

4. 日本語教師養成サブコースのことをどのようにして知りましたか(複数選択可)

項目	A オープンキャンパス	B ホームページ	C パンフレット	D 新入生ガイダンス	E 先輩や友人	F 研究科教員	G 研究科職員	H その他
回答数	1	4	1	5	3	3	1	0

5. 日本語教師養成サブコースを履修しようと思った理由は何ですか。自由に記述してください。

海外に留学していた際、日本語に興味関心のある外国人が非常に多いことに気が付いた。同時に、日本のことや日本語について教えてほしい、質問があるとと言われることも多かったが、知っているつもりで、実際答えるのは非常に難しいことが分かった。そのような状況になったときにしっかりと教えてあげることができる人になりたいと考えたため、履修を決断した。

人生の道を広げるため

私は将来、日本語教師として国内外で活躍することを志しており、そのためには教育実習を含む実践的なトレーニングが必須であると考えました。独学や座学だけでは得られない、教案作成のノウハウ、模擬授業を通じたフィードバック、そして実際の教室運営スキルを在学中に習得したいという強い思いがありました。教育現場で求められる実践的指導力を養い、修了後すぐに教壇に立てるだけの実力を身につけるため、本コースを志望しました。

日本語教師養成サブコースを履修しようと思った理由は二つある。一つは、日本語教育を体系的に学びたかったからである。個人レッスンで教えた経験があったが、自分の教え方が経験や直感に頼りすぎていると感じていた。もう一つは、修士論文の研究テーマが語彙習得に関するものであり、第二言語習得の理論や研究手法を学ぶ必要があったからである。

将来のキャリアの選択肢の一つとして非常に魅力的に感じたから。本コースの日本語教師養成サブコースは、しっかりとカリキュラムが組まれているため、基礎からしっかりと学ぶことができると考えたため。

日本語教師養成サブコースを履修しようと思った理由は、日本語を学ぶだけでなく、「どのように教えるか」という視点から日本語を捉え直したいと考えたからである。

私は中国語を母語とする日本語学習者として、日本語の文法や表現を学ぶ中で、「なぜこの文法はこう使われるのか」「なぜこの説明では分かりにくいのか」と疑問に感じる事が多くあった。こうした自身の学習経験から、学習者がつまずきやすい点や理解しにくい点を、日本語教育の理論に基づいて客観的に分析したいと考えるようになった。

また、日本語を「学ぶ対象」としてだけでなく、「教える対象」として捉え直すことで、学習者の立場に立った分かりやすい説明方法や効果的な授業設計について体系的に学びたいと考えた。日本語教師養成サブコースでは、文法指導法、教科書分析、授業実習などを通して、日本語教育の理論と実践の両面を学ぶことができる点に魅力を感じた。

将来は、日本語教育に関わる分野で、中国語母語話者の日本語学習を支援できる人材になることを目標としている。そのために、本コースで得た知識と経験を生かし、日本語教育への理解をより深めたいと考え、本サブコースを履修することを決めた。

3-2. 履修中

6. 日本語教師養成サブコースの科目の履修方法(科目種別の必要単位数等)を理解するのは、難しかったですか(選択)

選択肢	とてもそう思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	まったくそう思わない
回答数	1	1	2	1	1

7. 自分の専攻に関する学習(研究)と日本語教師養成サブコース履修科目に関する学習の両立は難しかったですか。次の①～③についてお答えください。(選択)

① 時間割の編成上、授業を取るものが難しかった

② サブコース履修科目の内容が専門外のため、自分の専攻に関する学習(研究)と両立することが難しかった

③ サブコース履修科目の課題が多く、自分の専攻に関する学習(研究)と両立することが難しかった

選択肢		とてもそう思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	まったくそう思わない
回答数	①	1	2	0	2	1
	②	1	1	0	3	1
	③	1	0	2	2	1

8. 日本語教師養成サブコースの科目を履修することで、どのような知識や能力などを身につけることができましたか。該当するものをお選びください。
(複数選択可)

項目	A 対学 習者コミ ュ能力	B 日本 語・言語 関心	C 日本 語・言語 鋭い感覚	D 国際 感覚・人 間性	E 専門 性・意義・ 情熱	F 言語 知識	G 言語 知識活用 能力	H 日本 語教授知 識	I 日本 語教授 知識活 用能力	J 背景 知識	K 背景 把握・分 析	L その 他
回答数	5	4	4	5	6	5	4	6	5	4	6	0

9. 日本語教師養成サブコースの科目を履修中、日本語教育について思ったこと、感じたこと、気づいたことなどがありましたら、自由にお書きください。

これまで受講者として何気なく受けていた授業の背後に、どれほど綿密な計画があるかを痛感しました。たった数十分の授業を行うために、分単位の教案を作成し、学習者の反応を予測し、提示するカードや資料を準備するというプロセスの大変さを知りました。特に、想定外の質問が来た時の対応や、タイムマネジメントの難しさは、実際に教案を練る過程で初めて気づいた点です。良い授業とは、教師のアドリブではなく、徹底した「準備」と学習者への「想像力」の上に成り立っているのだと深く学びました。

サブコースを履修する中で、日本語教育の奥深さを実感した。学習者の誤用には理論的な背景があることを学び、学習者を見る視点が変わった。また、実習を通じて授業設計の難しさに気づいた。日本語教育は、単に言語知識を教えるだけでなく、学習者一人ひとりに合わせた支援をする専門性の高い仕事だと改めて認識した。

日本語教育で使用する教科書(『みんなの日本語』など)で掲載されている日本語は、本当に生きた日本語なのかどうか気になる場面が多かったように思う。非母語話者向けであるため、最初から母語話者が使うような日本語を教えることは難しいとは思いますが、実際の生活で使用する日本語との乖離が大きすぎると、学習者も戸惑うのではないかと思った。

日本語教師養成サブコースの科目を履修する中で、日本語教育は自分が想像していた以上に実践的で難しいものであると感じた。履修前は、日本語の文法や語彙を理解していれば教えることもできるのではないかと考えていた。しかし実際には、自分が理解している文法項目を「どのように説明すれば学習者にとって分かりやすいか」を考えることは非常に難しく、学ぶことと教えることの間には大きな違いがあると気づいた。特に、「やさしい日本語」を意識して話すことの重要性を強く感じた。普段自然に使っている日本語表現でも、学習者にとっては難しい場合が多く、語彙

や文の長さ、言い換え方を工夫する必要があることを実感した。また、授業中の指示や説明に用いる教室用語も、事前に準備し、分かりやすく伝えることが重要であると学んだ。

さらに、実習授業を通して、授業中に予想外の状況が起こることや、学生の反応に応じて柔軟に対応する必要があることも経験した。例えば、学生が理解していない様子を見せた場合には、説明の方法を変えたり、具体例を追加したりするなど、その場で判断する力が求められることを実感した。

これらの経験を通して、日本語教育は知識だけでなく、学習者の立場に立って考える姿勢や、状況に応じて対応する実践力が重要であることに気づいた。今後は、理論と実践を結びつけながら、より分かりやすい日本語指導ができるように学びを深めていきたいと考えている。

3-3. 履修後

10. 日本語教師養成サブコースを履修・修了してよかったと思いますか(選択)。その理由を具体的にお書きください。

選択肢	とてもそう思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	まったくそう思わない
回答数	2	4	0	0	0

その理由

履修する授業が専攻関係のものとはサブコース関係のものであまり被ることがなく、かなり履修授業量が増えて大変だったが、日本語教育に関する専門的な知識、教育方法、またさまざまな文化を学ぶことができてよかった。

修了してよかったと強く思います。理由は、日本語を「学ぶ側」から「教える側」の視点で捉え直すことで、私自身の日本語に対する理解が飛躍的に深まったからです。文法や語彙をどのように説明すれば誤解なく伝わるかを突き詰める過程で、曖昧だった知識が整理され、論理的な構造として定着しました。このコースでの学びは、自身の修士研究を深める助けになっただけでなく、今後日本社会で生きていく上での語学的な自信と、母語が異なる人々への想像力を育む貴重な機会となりました。

理論と実践の両面から日本語教育を体系的に学べたことで、教師としての土台を築くことができた。第二言語習得の理論や研究手法を学んだことは、修士論文の研究にも直接役立った。また、実習での経験や先生からのフィードバックを通じて、自分の課題に気づき、成長することができた。今後日本語教師として働く上で、サブコースでの学びは大きな自信と指針になると確信している。

履修中は自身の研究や授業との両立で正直大変ではあったが、それ以上に学べたことが多かったと思う。サブコースでの学びの中で、自身の研究に

直接的に結びつく点は少なかったが、これからのキャリアパスや生活を考えると、多くの場面で活かそうなものばかりだと感じる。

日本語教師養成サブコースを履修・修了してよかったと思う。本コースを通して、教師として学生とどのようにコミュニケーションを取るべきか、また授業を行うためにどのような準備が必要かについて、理論と実践の両面から学ぶことができたと考えている。

特に、文法や語彙を教える方法だけでなく、「やさしい日本語」を用いた説明の仕方や、学生の理解度に応じた声かけなど、実際の授業場면을想定した指導方法を身につけることができた点が大きな収穫であった。また、実習授業を通して、授業中に起こるさまざまな状況に柔軟に対応する力も養われた。

これらの学びは、日本語教育に関する理論的知識と実践的経験の両方を含み、将来、日本語教育分野に携わる際の重要な基盤になると考えられる。

11. 修了後のあなたの状況について、次の①～⑤にお答えください。

① 修了後、どこに住む予定ですか。

日本	5
日本以外の国	1

② 修了後、特定の教育機関(大学院など)において、日本語教育に関連する学習(研究)をしますか。

はい	0
いいえ	6

④ 修了後、日本語教育に関連する仕事(正規・非正規)をしますか。あるいはそのための準備中ですか。

はい	3
いいえ	3

⑤ 今後、登録日本語教員になるための「応用試験」を受験する予定はありますか。*

選択肢	すでに受験した	来年度受験予定	数年以内に受験予定	特に受験予定はない	無回答
回答数	1	3	1	1	0

*④は個人情報に関わる回答を含むため省略

3-4. 全体を通して

12. 日本語教師養成サブコースについて、ご意見がありましたら、自由に記述してください。履修前、履修中、履修後、どの段階でも構いません。

特になし
特にございません。充実したカリキュラムで、多くの学びを得ることができました。
特にありません。
全体として、日本語教師養成サブコースは、理論と実践をバランスよく学べる非常に意義のあるコースであり、今後日本語教育に関心を持つ学生にとって有益な学びの場であると考えます。